

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 12月えんだより

「さあ、ベルレヘムへ行こう。」

(ルカによる福音書第2章 8～20節)

今年も早いもので、1年をしめくくる12月がきました。寒さも日に日に増してきて、すっかり冬の到来を感じます。体調に気をつけて、クリスマス、年末年始を迎えていきましょう。

さて、毎朝保育園に登園されて、「行ってらっしゃい」「バイバイ」という対話の光景をみます。子ども達が、直ぐに手を放し、遊びに夢中になると、嬉しい反面、少し寂しさを感じる時もある。「パパ、ママ」と泣かれますと、後ろ髪をひかれますね。子ども達は、「きっと迎えに来てくれる」、私を愛してくれるお父さん、お母さんが必ず迎えに来てくれると確信をして待っていますので、泣いているお友達も「元気に遊んでいたら、迎えに来てくれるからね」と話しますと、子ども達は、遊びに向かい始め、みんな保護者の皆さんの帰りを待ちわびます。

クリスマスはもうすぐ来ますが、この日は、イエス・キリストの誕生をお祝いする日です。街は煌びやかに装飾されて、何だかワクワクするのですが、2000年以上前に、イエスが生まれることを最初に知らされたのは、野宿をしながら夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いです。彼らは当時の身分制社会の中で、底辺に位置づけられており、見守っていた羊も彼らのものではありません。雇われて仕事をしており、時には盗賊や野獣から身をもって羊を守っていました。真夜中の野原にいた羊飼いの前に現れた天使が「**恐れるな、わたしは、全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。**」というのです。神様は、特定の人達のためだけにイエスを送ったわけではありません。誰一人の例外もなく、神様は、イエスをこの世に送られました。

格差が拡大し、生きるための競争に駆り立てられ、日々の働きに疲れ果てていた羊飼いらの生活は厳しく、神様へ祈りを日々ささげていても、神様について知る機会もなく、神様との距離を感じていました。だからこそ天使は、**あなたがたのためにも**救い主は生まれたのだと強調したのです。あなた一人のことも忘れることはない。大切な存在だというメッセージです。

中国の思想家の魯迅は、希望について、「希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」といいます。私達は羊飼いと共に、飼葉桶に寝かされた乳飲み子であるイエスを見て、イエスが私達と共におられること、神様が私達を愛し共にいてくださることです。又、イエスが先立って歩み、道を作り、その道は平和へと向かう希望の道であることです。

先日子ども達が、「へいわとせんそう」という絵本を読み、「戦争をしている人のところをやさしくしてください」という思いを語ってくれました。この子ども達の心が希望の道、平和の道へとつながることを願います。

年主題 「つながって」～今、わたしを生きる～

12月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ * 保育者や友だち、家族と一緒にクリスマスを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * クリスマスの意味を知り、喜びを分かち合う * いろいろな人のことを思い、自分ができていることを考える * 心を合わせて表現することを楽しむ。
讃美歌	おほしがひかる	きよしこのよる こども改74